



RIKKYO UNIVERSITY  
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE  
2022. 1. 20



みなさんこんにちは。1月17日、「阪神淡路大震災」から27年目を迎えました。

朝、目が覚めてテレビを付けた時現れた光景を、私は今もなお忘れることはできません。亀裂の入った道路や倒壊した建物…当たり前の「日常」が一瞬で奪われることがあるのだと、日々の生活の有り難さを改めて感じた日でした。

実は1月17日は「おむすびの日」でもあります。由来は、この阪神淡路大震災の寒い被災地で、ボランティアの方々が炊き出しをしておむすびが配られたことからきているそうです。大変な災害と、人の優しさを忘れないように…という意味があるのかもしれません。

また、「人と人が手を結ぶ」という意味も込められているそうです。「おにぎり」「おむすび」いろんな表現がありますが、「おむすび」＝「お結び」という言葉には、作る人と食べる人を繋ぐような、何とも幸せな響きと温かさを感じますね。

(コーディネーター・茅)



## CONTENTS

- (1) ボランティアセンターからのお知らせ
- (2) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報
- (3) ボランティア情報

---

---

### (1) ボランティアセンターからのお知らせ

---

---

#### ・バリアフリー映画上映会学生スタッフの声 (感想抜粋)

昨年12月11日にバリアフリー映画上映会が開催されました。12月4日のワークショップを含め、今年度もオンラインでの上映会になりましたが、学生スタッフ17名が半年の間準備を重ねて本番を迎えました。

今年の学生スタッフはほとんどが新規メンバーで、当日ようやく対面で全員がそろいました。見事なチームワークでした！

今回はそんな学生スタッフの皆さんの活動に関わった感想をご紹介します。

\*\*\*\*\*

◆このバリアフリー上映会に参加した一番の理由は、大学に入ったのだから何かしたい！という軽いノリでした。けれど、初めて参加したワークショップで、ブレイクアウトセッションをまとめてくださった学生の方が上手くてこんな風にやってみたいと憧れたと同時に、バリアって特殊なことじゃないんだと考えを改めることもできて、絶対にこれは本番まで続けようと決意しました！

◆自分一人じゃ決して得られなかった視点を得ることができ、今までの概念で固定された「バリア」ではなく、柔軟な「バリア」の捉え方ができるようになったと感じています。座談会では時間がなく発言できなかったのですが、私たちが持っている固定概念、そして、それによって作られる「健常者の方」と「しょうがいがある方」という区切りもバリアと呼べるのではないかなと思いました。そして、このバリアフリー上映会の活動を通じて、私の中にあつたそのバリアも文字通りフリーにできたなあ自分では感じています。

◆当初はとても緊張し、楽しいながらも毎回いっぱいいっぱいという感じでしたが、次第にどんな意見を出しても受け止めてもらえる、大丈夫と安心できる存在に自身の中で徐々に変わっていったように思います。

特に映画を選定する際には率直に意見を出し合ったことで、今回の映画を選んだ意味をより深く考え伝える事が出来ました。



\*\*\*\*\*

学生スタッフのみなさん、本当にお疲れ様でした。

引き続きバリアフリー映画上映会のSNSは更新しております。ぜひチェックしてください。

Instagram: rikkyo\_bfmovie\_

Twitter: @rikkyo\_bfmovie

また、次年度もバリアフリー映画上映会学生メンバーを募集する予定です。

興味や関心のある方はぜひボランティアセンターまで♪

### 【対面での面談&zoom 面談受け付けています】

ボランティアセンターはボランティアの情報収集だけでなく、皆さんの相談も受け付けています。

春休みに向けて、何かやってみたいけど、何から始めよう…。どんなことができるんだろう…。そんなご要望がありましたら一度ボランティアコーディネーターとお話しましょう。対面、zoom の両方で面談が可能です。

[zoom 面談希望の方は事前に volunteer@rikkyo.ac.jp](mailto:volunteer@rikkyo.ac.jp)までお問合せください。

#### ★面談可能時間★

月～金：9:00～17:00

池袋キャンパス：5号館1階

新座キャンパス：7号館2階

---

---

## (2) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

---

---

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

もうすぐ東日本大震災から11年を迎えます。東日本大震災を受け、立教生はどのような思いでどのような活動を行ったのかを振り返ってもらいました。

\*:・°。\*:・° \*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°

東北という場所が好きになった

和田拓真さん（観光学部3年）

\*:・°。\*:・° \*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°。\*:・°

こんにちは！東日本大震災復興支援団体 Three-S の代表を務めている和田拓真です。

Three-S は、現地での震災学習、イベント参加に加え、東日本大震災に関する写真展の開催、SNS 等を利用した東北の魅力や防災知識の情報発信など、現地から離れた場所からでもできる様々な活動を行っています。

私は新入生の頃、漠然と「ボランティアサークルに入りたい」と考えていました。これまでボランティア活動に参加したことはなく、知識もほとんどなかったため、こんな活動をしたかったといった希望は全くありませんでした。新歓の時期、中庭でお昼を食べている時、偶然 Three-S の先輩からチラシを頂き、説明を聞きに行きました。そこで、先輩方の雰囲気や穏やかで温かい印象を受けたことと、幅広くボランティアをするのではなく、東日本大震災の復興支援に焦点を当てて活動を行っていることに魅力を感じたことが決め手となり、

Three-S に入ることにしました。

実際に活動に参加し、合宿や写真展などを通して、震災の恐ろしさや防災知識を学ぶことができ、それと同時に現地の美味しい食べ物やきれいな景観など、今の東北の魅力というものを非常に強く感じました。そして東北の街に興味を湧き、純粋に訪れたいと思うようになりました。実際に岩手に一人旅に行ったこともあります。

このような気持ちもあり、コロナ禍でもできる活動として、今年から SNS で東北の魅力を情報発信することに取り組むようになりました。正直、サークルの公式 SNS はフォロワー数が少なく、見てくれる人は少ないのではと思いながら自信なさげに取り組んでいました。しかしある時、岩手名産のお菓子を SNS に投稿した際、製造元の方から感謝のお言葉をメールで頂いたことがありました。後日ご厚意で人数分のお菓子まで送って頂き、情報発信といった小さな取り組みでも何かしらの意味があるということがよく感じられた経験になりました。

これまで活動をしてきて、東日本大震災発生当時の様子や復興過程、防災に関する知識など多くのことを学べたのはもちろんのこと、合宿で現地に行ったりイベント開催のために調べたりする中で、東北という場所が好きになりました。

東日本大震災から今年で 11 年が経ち、復興も着実に進んでいます。そのような中で、今さらできるボランティアはあるのかと考える人も多いと思います。確かに直接的な支援というのはなかなか難しいですが、現在はマイナスをプラスにするのではなく、プラスをさらにプラスにするといった復興支援・まちづくりが求められている時期であると思います。震災の風化防止に努めることを意識しながら、東北の街・食・人などの様々な魅力を知り、東北を好きになるということが、さらなる東北の明るい未来に少しでもつながるのではないかと、3 年間の活動を通して考えるようになりました。



和田拓真さん

東日本大震災復興支援団体 Three-S Instagramはこちらです！

<https://www.instagram.com/p/Bvxr6hngxeK/>

@rikkyo.threes

---

\*お問合せ 立教大学陸前高田サテライト事務局 [rrs@rikkyo.ac.jp](mailto:rrs@rikkyo.ac.jp)

\*陸前高田サテライトの取り組みを発信中

公式 Instagram (@rikkyo\_rrs) [https://www.instagram.com/rikkyo\\_rrs/](https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/)

\*『陸前高田プログラムガイド』

[https://spirit.rikkyo.ac.jp/rikutaka/SiteAssets/program\\_guide.pdf](https://spirit.rikkyo.ac.jp/rikutaka/SiteAssets/program_guide.pdf)

---

---

### (3) ボランティア情報

---

---

#### 【「ことばの道案内」で視覚しょうがい者など様々な人の外出を支援】

◆募集团体：特定非営利活動法人 ことばの道案内（通称：ことナビ）

◆活動内容：「ことばの道案内」の作成。視覚しょうがい者など画像や地図の認識が難しい方のために、文章で出発地から目的地までのルート、道案内を作成します。活動では実際に現地に行って道や周囲の様子を調査・確認し、説明文を作成・修正します。（屋外での活動になるため、天候の悪い日は中止になることがあります。）

◆活動日時：土曜または日曜日の午前中（午後の場合もあります）

#### 【ユース企画オンラインイベント・目に見えない異文化を知ろう！

～「私」と「あなたから見える私」について語ろう～】

◆募集团体：公益財団法人横浜 YMCA

◆内容：「〇〇人」「〇〇人」「ハーフ」。みなさんは身の回りにいる人を、このような枠組みに入れて考えることはありませんか？でも「〇〇文化」や「〇〇人」って、本当に簡単に定義できるのでしょうか。フィリピンにルーツを持ちながら日本で生まれ育ち、現在は地元で外国籍の子供達の学習支援をしている学生にお話を聞きます。

◆日程：2022年1月22日(土) 14:00-15:30

参加費 無料、Zoom（プログラム前日に招待 URL をメールでお送りします）

[https://language.yokohamaymca.org/english/program\\_trial/ymcayouthcommunity\\_event/](https://language.yokohamaymca.org/english/program_trial/ymcayouthcommunity_event/)

【お申込み方法】 Google フォームからお申込みください

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSewmIAeofBwxsv8wf6G82BvZFg6iRUNmr9c\\_5SABMTY6cMlw/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSewmIAeofBwxsv8wf6G82BvZFg6iRUNmr9c_5SABMTY6cMlw/viewform)

【The 3rd Youth Conference hosted by Yokohama YMCA～パラスポーツを通じた共生社会

## の実現に向けてにむけて】

- ◆募集团体：公益財団法人横浜 YMCA
  - ◆内容：年齢、性別、しょうがいの有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツって？  
用具やルールの工夫により誰もが楽しめるパラスポーツの実践から、お互いに支え合って生きていく社会について考えます。
  - ◆日時：2022年2月5日(土)14:00～15:30
  - ◆参加費無料。Zoom（プログラム前日に招待 URL をメールでお送りします）
- 詳細はこちらから：[The 3rd Youth Conference hosted by Yokohama YMCA | 語学](#)

---

## 立教大学ボランティアセンター

---

- ◎池袋キャンパス 場所：5号館1階
- ◎新座キャンパス 場所：7号館2階
- ◎ホームページ

[http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular\\_activities/volunteer.html](http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html)

◎メールアドレス [volunteer@rikkyo.ac.jp](mailto:volunteer@rikkyo.ac.jp)

◎TwitterID @rikkyo\_volucen [http://twitter.com/rikkyo\\_volucen/](http://twitter.com/rikkyo_volucen/)

◎Instagram [https://www.instagram.com/rikkyo\\_vc/?hl=ja](https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja)

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。

<https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7>

---

(C)2019 RVC all rights reserved.

---